

# 前田利家のふるさと荒子界限（第7回）

荒川 武光（23期 文化A）

第1回から第6回まで、前田利家の生誕から生涯の行跡やエピソード等でしたが、前田利家の故郷である荒子界限には多くの足跡や地名等が残っています。

・前田利家とまつの銅像（荒子2丁目） あおなみ線「荒子駅前」に二人の像があります。これは「前田利家公初陣の像」（平成19年設立）と利家を見送る「まつ」さん（平成24年設立）の像です。初陣とは「武士の子弟が初めて合戦に参加すること」を言います。利家は15歳で元服し「萱津の戦い」が初陣で成果を上げています。この像は富山県高岡市の彫刻家「田畑 功」氏が作られました。



（利家とまつの銅像）

・荒子観音（荒子町字宮窓） 浄海山円龍院観音寺が正式名称で、天台宗です。開基は天平元年（729）北陸の霊山・白山を開いた泰澄大師で本尊は聖観世音菩薩で同大師の自作と言われています。当初は「一山十二坊」を数えた大霊場（位置は区役所とあおなみ線の間付近）でしたが、その後幾度となく衰退・再興して現在地に移りました。永禄年間（1558～1570）に全運上人が再興し、天正3年（1575）前田利家は越前府中城主（大名）になり、故郷にある荒子観音の修造や荒子の各村に馬飾り（バドン）を贈呈しました。また、本堂には利家が着用した甲冑（修復済）が保存されています。山門には円空作の仁王像2体（阿像・吽像で、高さ約3m）と木端仏千二百余体等があります。境内に室町時代末期の「多宝塔」は国の重要文化財に指定されています。



（馬飾り）

・富士権現天満天神宮（荒子町字大和ヶ池） 鳥居前に荒子城跡の標識があり城は利家の父・利昌が天文年間（1532～1555）に築城され利家も居城しています。富士権現の祭神は木花開那姫命と前田氏が先祖という菅原道真です。境内には「前田利家卿誕生之遺址」の石碑等があります。なお、生誕地は荒子城説と前田城説があります。



（富士権現天神天満宮）

・前田速念寺（前田西町1丁目） この場所は前田城跡で城は東西一丁余・南北二丁余とされています。旧前田村は前田一氏の発祥の地で城主前田佐十郎長親は織田信秀（信長の父）に仕え「一柳庄」を領していました。寺伝では、利家はこの地で生まれ荒子に移ったとされています。寺の本尊の阿弥陀如来尊像は蓮台に「聖徳太子御作・前田又左衛門尉利家」の銘があります。境内には前田家に関わる多くの史跡等があります。



（前田速念寺）

・利家ロード（打出1丁目） 野田2丁目交差点から南に約100m（市営打出荘の北東隅）にあります。全長約800mで道の南側に利家の成長過程（主に合戦等）について説明文とイラストが描かれた石標があります。



（利家の合戦等説明標識）

・犬千代ルート 前田利家は荒子界限で幼年～青年期を過ごし信長に仕え武将として成長していきますが、その過程や地域の歴史や史跡等を辿るルートとして、NHK大河ドラマの放映（2002年：利家とまつ）の前にガイドマップが作られました。「犬千代」とは利家の幼名です。冊子は中川区役所で入手できます。

— 完 — 1